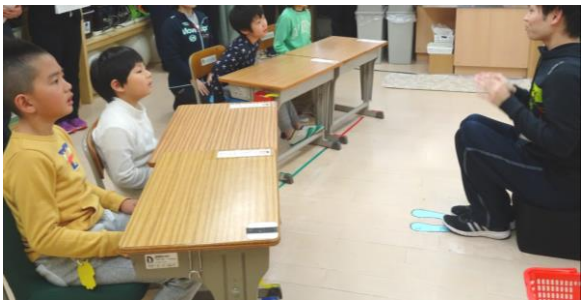
研究紀要　３４号

平成２９年度

研　究　紀　要



広島市立広島特別支援学校

御　　挨　　拶

広島市立広島特別支援学校，平成２９年度研究紀要を御覧いただき誠にありがとうございます。本校の教職員を代表いたしまして，御挨拶申し上げます。

本年度，本校は，平成２９年１１月３０日（木）に，公開授業研究会を行いました。御参加いただきました皆様に，この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。公開授業研究会当日，高等部職業コースの生徒が受付係，案内係をし，昼の時間には，作業学習「フードサービス」で当日焼いたパンを販売しました。来校された皆様のおもてなしを，生徒も行いました。生徒は平素の学習を実践的に体験できる機会でもありますし，生徒が活動する様子を参観していただく場ともなっています。午後からの研究協議会では,「かかわりあう」子どもの姿から学んだことを語り合います。研究部では，どのような協議会がよいのか模擬研究協議会を行い，協議会シートの作成を行って当日を迎えます。ポスターセッションは，体育館内で小・中・高等部合わせて２５箇所で行います。このような小・中・高等部全体でのポスターセッションは，年間３回実施し各学部の指導の連続性と実践の共有化を図っています。学部内でのポスターセッションも行います。自分たちの取組を発表することで，授業を振り返り評価することにもなります。本校の公開授業研究会，参加したいと思われませんか。

本校では，平成２８年度から３か年の研究として次の研究主題を設定しました。『自立と社会参加を目指し,「わかる」,「できる」,「かかわりあう」を大切にした授業づくり』です。１年次の副題は『「わかる」,「できる」日常生活における指導』でした。本年度は,『「かかわりあう」日常生活における指導』としています。「わかる」,「できる」から「かかわりあう」を意識した環境づくりを「物理的支援環境」と「人的支援環境」とし，適切な指導と必要な支援を行っています。授業では，授業づくりシートを作成し，個々の目標に対し設定した環境づくりを評価し授業の振り返りと同時に次への課題を明らかにしていきます。「かかわりあう」環境づくりにより，児童生徒の主体的な姿を引き出していくのです。

新学習指導要領では，主体的・対話的で深い学びの実現が掲げられています。広島県では，学びの変革アクションプランの全面展開が平成３０年度です。本市では，教育の基本理念を『「心身ともにたくましく思いやりのある人」の育成』としています。この理念のもと本市の幼・小・中・高・特別支援学校において「豊かで深い学びの創造」を目指しています。「豊かで深い学びの創造」とは,「主体的な学び」,「対話的学び」,「課題発見・解決の学び」としています。国，県，市とも求めることは同様です。本校の取組は，まさに的を射ている具体的な教育実践です。

本校の教育実践が，児童生徒の豊かな生活と幸せにつながり，本市の特別支援教育の充実・発展の一助になればと考えています。今後とも，全教職員が一体となって取り組んでまいります。本校の取組を御覧いただき，御忌憚のない御批正を賜れば幸いです。

結びとなりましたが，本年度の研究推進並びに授業公開に当たり懇切・丁寧な御指導・御助言を賜りました，兵庫教育大学大学院特別支援教育専攻障害科学コース教授　井澤信三先生，広島市教育委員会特別支援教育課主任指導主事　福庭由也先生，同主任指導主事　山形恵美子先生，同指導主事　大久保誠先生，広島市教育センター主任指導主事　戸田美鈴先生，同指導主事　西田由香先生　に厚くお礼を申し上げ御挨拶といたします。

平成３０年３月吉日

広島市立広島特別支援学校長　　中　尾　秀　行

目　　次

挨拶

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題・・・１

２　研究主題設定の理由・・・１

３　研究の目的・・２

４　研究仮説・・・２

５　目指す児童生徒の姿・・・２

⑴　自立と社会参加を目指した児童生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

⑵　「わかる」,「できる」を大切にした授業づくり（１年次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

⑶　「かかわりあう」を大切にした授業づくり（２年次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

６　研究の方法

⑴　環境づくりの四つの視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

⑵　授業づくりシート・・・４

⑶　研究体制・・５

Ⅱ　研究の実際

１　「かかわりあう」環境づくりの実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

２　授業実践（公開授業研究会）

⑴　小学部第２学年単一学級　朝の会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

⑵　小学部第５学年重複学級　朝の活動の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

⑶　中学部第２学年単一学級　掃除，帰りの会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

⑷　中学部第２学年重複学級　給食の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

⑸　高等部第１学年職業コース　帰りの会の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

⑹　高等部第１学年単一学級　朝の活動の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果・・２７

２　課題・・２７

３　今後の展望・・２７

【引用・参考文献】・・２８

Ⅰ　研究の概要

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題

自立と社会参加を目指し，「わかる」，「できる」，「かかわりあう」を大切にした授業づくり

２　研究主題設定の理由

本校は，職業コースに在籍する比較的軽度とされる生徒から，医療的ケアの必要な，重度・重複障害のある児童生徒まで，幅広い実態の児童生徒が在籍している。この状況を鑑み，本校では児童生徒の発達段階や将来目指していく姿によって，教育課程を六つの類型に分け，実態や課題に合わせた指導を行っている。学部や類型によって差はあるが，本校では教育課程において，日常生活の指導の時間がおよそ１／４から１／２近くを占めている。このように本校では，基本的な生活習慣を身に付けることから，将来の職業生活へとつなげるための基礎となる力を付けることまで，児童生徒の実態に合わせて系統的に指導を行い，日常生活の指導の充実を図っている。しかし，毎日繰り返し行う活動であることから，形骸化しやすく，指導内容にあまり変化が見られず，発展的な指導を行うことができていなかったり，指導の工夫や改善が進まず，指導が単調になってしまったりすることがあった。また，日常生活の指導は学級単位で行うことが多く，学年内であっても学級が違うと，どのような取組を行っているのか分からず，取組内容の共有が難しいという課題があった。そこで，昨年度からの３年間において，日常生活における指導の充実を図るために，授業づくりを通して研究を進めていくこととした。

「日常生活の指導の手引き」によると，日常生活の指導は，「日常生活が充実し，高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものであり，身辺生活の処理に関わる技能を高めることに留まらず，日常生活をより自立的，発展的に行うための生活意欲や生活態度を育てること」とある。日常生活の指導において生活意欲と生活態度を育て，受身的な生活から，自らする生活へと変えていくことが，本校の学校教育目標にもある，自立と社会参加を目指す上で大切なことであり，主体性をもって豊かに生きることへとつながると考える。そのためには，日常生活の指導を充実させ，まず児童生徒自身が「わかった」「できた」と実感すること，さらに，人との「かかわりあい」の中で活動に取り組むことで，児童生徒の自信や意欲，達成感を更に高めていくことができるのではないかと考えた。また，体育科・保健体育科の授業づくりから継続して取り組んできた支援環境を整理すること，つまり環境づくりに視点を当てて授業づくりを行うことで，学習環境の整備，支援の工夫などを図ることができると考え，環境づくりに視点を当てた授業づくりにも継続して取り組もうと考えた。

本研究は，３年計画で行い，昨年度は，「わかる」，「できる」日常生活における指導を副題として授業づくりに取り組んだ。今年度は，人とのかかわりの中で主体的な活動に取り組むことを目指す「かかわりあう」日常生活における指導に取り組むこととした。（表１）なお，本校では教育課程上，日常生活の指導を扱わない類型があるため，研究副題を「日常生活における指導」とすることとした。

【表１　研究計画】

自立と社会参加を目指し，「わかる」，「できる」，「かかわりあう」を大切にした授業づくり	
平成２８年度（１年次）	「わかる」，「できる」日常生活における指導
平成２９年度（２年次）	「かかわりあう」日常生活における指導
平成３０年度（３年次）	「わかる」，「できる」，「かかわりあう」日常生活における指導

３　研究の目的

児童生徒の自立と社会参加を目指し，生活意欲と生活態度を育てるために，環境づくりに視点を当てた日常生活における指導の授業の在り方を明らかにする。

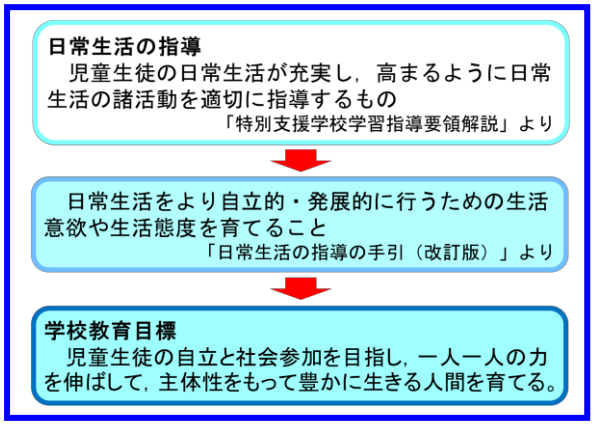
４　研究仮説

日常生活における指導において，環境づくりに視点を当てた授業づくりを行うことによって，児童生徒が「わかる」，「できる」，「かかわりあう」ようになり，主体的に活動に取り組む姿が見られるであろう。

５　目指す児童生徒の姿

(1)　自立と社会参加を目指した児童生徒の姿

研究主題設定の理由でも述べたように，本校の学校教育目標にもある，児童生徒の自立と社会参加を目指し，主体性をもって豊かに生きることへとつなげるためには，児童生徒の生活意欲や生活態度を育てることが必要であると考える。（図１）生活意欲と生活態度を育てることで，自らできることをしようとする，自ら考えて行動をする，自ら目的をもって行動する，自ら試行し，判断し，目的をもって行動するという児童生徒の主体的に活動に向かう姿となって表れてほしいと考えている。（図２）



【図１　日常生活の指導と学校教育目標との関連】【図２　自立と社会参加につながる児童生徒の姿】

(2)　「わかる」，「できる」を大切にした授業づくり（１年次）

児童生徒の主体的に活動に向かう姿を引き出すためには，児童生徒自身が，「わかった」「できた」と実感できることが大切であると考え，昨年度は「わかる」，「できる」を大切にした授業づくりを行った。児童生徒が，何をすればよいのか，自分の行動が何に結び付いているのかが分かり，自から活動に向かう姿を目指し，教室内の教材・教具，支援ツールの配置や教師の立ち位置，児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用，児童生徒の係活動などを工夫し，見直しを行いながら授業づくりを進めた。

■　「わかる」,「できる」環境づくり

〈必要なもののみ提示〉

〈回数や終わりを提示〉

〈定点からの呼び掛け〉

〈できる活動を生かした係活動〉

(3)　「かかわりあう」を大切にした授業づくり（２年次）

今年度は，昨年度の研究の成果を生かしながら，児童生徒の主体的な姿を更に伸ばし，家庭や地域，卒業後など他の場面にも広げていくために，「かかわりあう」を大切にした授業づくりに取り組むこととした。教師であれば，適切な評価や児童生徒同士をつなぐ役割を担い，児童生徒同士であれば，支援ツールを活用し，係活動やグループでの活動に取り組み，相手を受け止めたり，協力したりして行動するなどの「かかわりあう」を大切にした環境づくりを行う。人とのかかわり合いの中で活動に取り組むことで，人に認められた，頼りにされた，協力してできたと感じ，そのことが自信や意欲，達成感につながり，他者を意識する，自分で役割に向かう，周囲に気を配る，協力して活動に向かうなど，児童生徒の主体的に活動に向かう姿を引き出すことができるのではないかと考えた。

６　研究の方法

(1)　環境づくりの四つの視点

本校では，児童生徒が主体的に活動するための環境全体を支援環境と捉え，「環境づくり」に視点を当てて，授業づくりを行ってきた。支援環境とは，児童生徒が主体的に活動するための環境全体のことであり，「物理的支援環境」と「人的支援環境」がある。なお，「主体的」とは全てのことを自分一人でするということではなく，他人の力を借りたり，補助具を用いたりしながらも，できる範囲のことを自分の力で行ったり，自己の力を可能な限り発揮したりすることと捉えている。この環境づくりの四つの視点は，富山大学附属特別支援学校の研究を基に，本校で平成２５年度より３年計画で行った体育科・保健体育科での授業づくりを進める中で整理してきたものである。

【表２　環境づくりの四つの視点】
（富山大学人間発達科学部附属特別支援学校(2012)を参照して一部変更）

物理的支援環境	① 教材・教具，支援ツールの効果的な配置 a　動線の整理 b　配置位置，間隔 どこに置くか ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 a　理解を助ける b　動きを引き出す c　活動の終わりの明示 何をどのように用いるか
人的支援環境	③ 教師の役割 a　ＭＴとＳＴの役割，連携 b　立ち位置，動線 c　効果的な支援の仕方 ④ 児童生徒の役割 a　活動のモデル b　係の役割 c　位置，動線 d　ペア・グループ活動

(2)　授業づくりシート

昨年度の書式（表３）は，児童生徒の「付けたい力」から導き出した「単元（題材）の目標」「学習活動」と「環境づくり」を踏まえ，指導計画の作成を行うものであった。この書式は，付けたい力を意識して授業づくりをしやすい反面，評価規準が分かりにくいということが課題であった。

そのため，本年度の書式（表４）は，昨年度の課題を受け，「実態把握」「課題設定」「授業実践」の授業づくりのサイクルを機能させていくこと，評価規準を明確にし，適切な評価を行うことを視点に，「児童生徒の実態」と「個別の目標」の欄を加え，書式の改善を行った。評価は，前期・中期・後期の３回に分けて行い，手立てや学習活動などを見直すことで，授業改善を図りやすくした。詳しい書式は，６ページに掲載。（図３）

【表３　平成２８年度　授業づくりシート】

学部・学年					
付けたい力					
単元名					
単元の目標	学習活動	手立て（環境づくり）	評価		
			前期	中期	後期
〈単元全体の振り返り〉					

【表４　平成２９年度　授業づくりシート】

〈単元・題材の目標〉				〈単元・題材の振り返り〉			
	実態	個別の目標	学習活動	環境づくり（手立て）	評価		
					前期	中期	後期
A							
B							

(3)　研究体制

研究の目的を達成するため，以下のように全体研修会，学部研修会を行った。また，実践発表として，公開授業研究会や広島県特別支援教育研究大会で授業公開や研究協議，ポスター発表を行った。

全体研修会

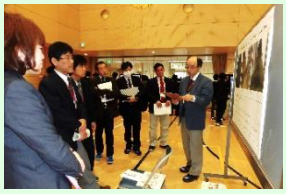
○　自立と社会参加を目指し，「わかる」，「できる」，「かかわりあう」を大切にした授業づくり

兵庫教育大学大学院特別支援教育専攻障害科学コース

教授　井澤　信三先生による講演

○　ポスターセッションで授業交流

本校全学級での取組交流



学部研修会

＜小学部＞

ミニコーナー
（実践交流）

協議会

＜中学部＞

学部研ノート
（研修記録）

協議会

＜高等部＞

教室巡り
（実践交流）

協議会

平成２９年度

広島市立広島特別支援学校　公開授業研究会

授業公開，研究発表，授業発表，研究協議，ポスターセッション，教材教具展示会

第５８回　広島県特別支援学校教育研究大会

ポスター発表

【図３　平成２９年度　授業づくりシート】

＿＿＿＿＿＿＿＿＿の授業づくりシート

部　第　学年　組　　担任（　　）（　　）（　　）

＜単元・題材の目標＞	＜単元・題材全体の振り返り＞※　取組当初との比較や他の場面に広がったことなどを書いてください。

	実態	個別の目標 ※　いつ，どこで，誰と，児童生徒の活動など，具体的に記入してください。	学習活動	環境づくり（手立て） ①　教材・教具，支援ツールの効果的な配置 ②　児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 ③　教師の役割 ④　児童生徒の役割	評価（環境づくりに視点を当てて） 前期（７／２５）	中期（９／２７）	後期（１２／２８）
A	○	○	○	(ｱ)・・・・・① (ｲ)	○・・・・・(ｱ)	○	○
B	○	○					